横浜市立 西柴中学校　令和 4 － 6 年度版　中期学校経営方針　（ 令和 5 年度修正 ）

学校教育目標	「共に学び、たくましく、豊かな心」をもった生徒を育てます。 （知・開）　（体）　（徳・公） ・基礎・基本を身につけ、主体的に考え・学び、社会の動向をとらえ、生き抜く知恵を育てます。（知） ・自分を律し、人を思いやる優しい心を育てます。（徳） ・自ら健康を保持増進し、心身ともたくましく生きる力を育てます。（体） ・地域や社会のため、自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力を育てます。（公） ・多様性を尊重し、コミュニケーションを通して、共に新たな価値を見出す力を育てます。（開）

学校概要					
創立 60 周年	学校長 中野 裕美	副校長 上城 康博	二 学期制	一般学級: 8	個別支援学級: 2
児童生徒数: 286 人	主な関係校: 西柴小学校 八景小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
・基礎・基本、主体的に考え・学ぶ、社会の動向をとらえる、生き抜く知恵 ・自分を律す、人を思いやる優しい心 ・自ら健康を保持増進する、心身ともにたくましく生きる力 ・自分の役割や働くことを理解し、行動する ・多様化を尊重する、コミュニケーション力、共に新たな価値を見出す力

西柴中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自己肯定感を育成する指導の工夫	豊かな関わり合いの中で、自他の多様性を尊重し、変化の激しい社会を生きていく子ども 小中一貫教育推進のため、小中ブロックで連携・協働して、9年間で育てたい子ども像を共有したうえで、小学校の授業参観、中学校の授業公開を行う。また、小中合同授業研究会において発達段階に応じて「共通取組項目」の内容を検討する。 児童生徒交流日に行われる生徒会による学校紹介や部活動の見学で積極的に児童・生徒の交流を図る。

中期取組目標
＊生徒一人ひとりが自他を尊重し、心豊かに向上心を持って学ぶことができる学校を目指します。 〇向上心を持ち主体的に学ぶことができる心身共にたくましい生徒を育むため、授業力の向上に努めます。 〇基本的な生活習慣を身につけ、自他を尊重し円滑なコミュニケーションを図りながら、集団の中で自分なりに活躍することできる生徒を育むため、組織的な生徒理解と生活指導に努めます。 〇地域や世界の人々と環境を大切にする心を持ち、進んで社会に貢献する意欲を持つ生徒を育むため、SDGsの視点からの指導に努めます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①各教科が主体的・協働的な学びを積極的に取り入れた授業形態を展開したり、ICTを効果的に活用した授業展開したりすることで、生徒の資質能力の育成を図る。 ②教員相互の授業見学及び研究授業や校内授業研を行う。また、小中一貫教育推進ブロックで授業研を行うことで小中のつながりを大切にする。 ③図書館の環境・内容の充実をさせて朝読書を継続し、読解力の向上を図る。
担当	学習指導部	
徳	人権教育	①人権作文の取組を通して、自分自身や、自分を取り巻く環境や社会について深く考えることを通し日、人間としての生き方について考える態度を育成する。②道徳の教科書をとおして、物事を多面的・多角的に考え、道徳的な判断力、心情と態度を育成する。 ③道徳の授業に積極的に協働学習を取り入れ、他者の主張を聞いたりする活動を通して、互いに尊重し、認め合い高め合おうとする態度を育成する。
担当	道徳推進担当	
体	健康教育	①保健体育の授業を通して、生徒一人ひとりがいつでもどこでも誰とでも自ら進んで他者との関わりをもち、運動に取り組めるように、協働的な学びの場を積極的につくり、基礎基本となる知識・技能習得を目指す。 ②様々な行事や活動を通して、望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身につけさせる環境を整え、心身の健康を保持増進しようとする意識を育てる。
担当	保健体育・保健安全指導部	
公開	国際教育	①修学旅行に向けた平和学習では、世界の情勢に目を向け、平和な世界を尊重する意識を高める。②WFPエッセイコンテストや国際平和スピーチコンテストへ参加したり、JOCAのキャリアプログラムを体験したりして、海外への関心を高めるとともに、SDGsの学習を充実させ、国際社会に貢献できるようなグローバルな視点をもった生徒の育成に努める。③オーストラリアとの交流を継続し、日本との違いを知ることにより、日本人としての自覚をち、他国を尊重することのできる態度を育成する。
担当	道徳・人権・国際・英語	
地域連携・学校運営協議会		①地域社会で行われる各種取組に興味関心を持ち、積極的な関りを持つことができるよう、ボランティア活動の募集などを周知徹底し、自らが地域における担い手になるという意識を育み、自助・共助・公助の必要性を学ぶ機会をつくる。 ②感染症の状況の変化により、集合に関する制限が以前より緩和されたことで、学校評価関係の研修や情報共有が再開された。小学校を含めた学校運営協議会からの意見等を共有し、コロナ後新しい学校の形を模索していく。
担当	地域連携・教務部	
いじめへの対応		①学校生活アンケートを活用し、生徒の悩みや困り感についての情報共有を徹底し、問題の早期発見・解決に努める。また、教職員自らが問題提起や課題意識をもち、その解決・改善を図ることで生徒の自己有用感・肯定感の醸成につなげる。 ②家庭や地域、子どもの健全育成に関わる関係機関との連絡を密にとり、行動連携を通したより強固な関係構築を推し進めていく。
担当	生徒支援部	
児童生徒指導		①学校行事を通して、生徒一人ひとりがそれぞれの役割を自覚し、互いに助け合いながら、ひとつのことを成し遂げることの大切さを実感させ、自分の存在意義を見出せるよう支援する。 ②生徒同士が互恵的相互依存の大切さを自覚しながら、問題解決をし、生徒同士でお互いがかけがえのない存在であることを気づかせるように支援していじめをさせない環境づくりを意識する。
担当	特活指導部	
人材育成・組織運営(働き方)		①職務の分散し、校務分掌の長に多くの職員が携わり、中期学校経営方針の作成に関り、学校全体を見る力を養い、学校全体の活性化を図る。 ②職員会議をはじめとした定例の諸会議に加え、毎朝の主任会を有効活用し、生徒に関する情報を学校全体で共有し、業務の効率化を図る。
担当	教務部	
		b9
担当		
		b10
担当		